

すばらしき“みえ”

FOR NICE COMMUNICATION

2025.12
249号

■特集／三重の祭り(12月～2月)

●いま、グループネット／ふれあい長寿津 ●みえを歩こう／明和町・松阪市 両機殿神社付近



三重の祭り(12月〜2月)



ピーヒャラ、ピーヒャラ、ドンドコドンドン。笛や太鼓が奏でる独特の音色、大勢の人々の弾んだ声、ずらりと並ぶ屋台や幻想的な灯り、寺社の境内で繰り広げられる伝統の技…。

「祭り」には、神仏への感謝、祖先や死者への鎮魂、大地の恵みへの祈願など、さまざまな祈りが込められています。三重県内でも、それぞれの地域の歴史や風土と結び付いた魅力ある祭りが受け継がれ、私たちの胸を熱くしてくれます。

今回は、12月から2月までの間に行われる三重の祭りをご紹介します。

*12月から2月にかけて県内で行われる祭りは数多く存在します。今回ご紹介するのは一部です。

*各祭りの内容や開催日時、開催場所、見学方法などには違いがあり、状況に応じて休止・中止する場合があります。事前に必ずご確認ください。

取材・文：中村 真由美・中村 元美・堀口 裕世

中川 絵美子

撮影……梅川 紀彦・松原 豊・尾之内 孝昭

中村 元美

ただし※印の写真は取材先から提供していただきました

発祥の地で年に二度奉納される、圧巻の伝統芸能

伊勢大神楽

毎年12月24日の午後、増田神社では年に一度の祭礼が行われ、境内は熱気に包まれます。伊勢大神楽の総舞が奉納されるのです。

伊勢大神楽は、伊勢神宮に参拝できない人々のために各地を回り、神楽を奉納する祭事。舞(獅子舞)と曲(放下芸)で構成され、獅子舞には悪魔を祓って幸福を与えるという意味が込められ、放下芸は人々を楽しませるための曲芸を表しています。国の重要無形民俗文化財にも



「綾採の曲」(右 山本 勘太夫さん)※



「水の曲」(皿の曲)※



「魁曲」※

〔桑名市太夫〕

指定されている伝統の芸能を披露するのは、「一般社団法人伊勢大神楽講社」の皆さん。現在、山本勘太夫社中・山本源太夫社中・森本忠太夫社中・加藤菊太夫社中・石川源太夫社中が存在し、この日のために、桑名に集結するのです。

総舞は、神楽開始の儀礼舞という意味を持つ「鈴の舞」に始まり、神をお招きし一年のお祓いをする舞「神来舞」、大神に捧げる神衣を織る糸箆の動きを表した「綾採の曲」、農事に関する災害防止を祈

願する「水の曲」などが披露されます。

技が決まるたびに、歓声が上がります。最後を飾るのは、花魁姿の獅子が肩の上に乗る「魁曲」です。艶やかさに魅了される一方で、修練の積み重ねを感じます。

「桑名は伊勢大神楽発祥の地ですが、意外と知られていないのが残念です」と話すのは、山本勘太夫さん。平成26(2014)年に9代目を襲名し、自らの修練の傍ら、後進の育成にも尽力する日々を過ごします。郷土の誇りである伝統芸能を「若い人たちにも知ってもらいたい」と語ってくれました。

本年の祭礼の日まであとわずか。本拠地桑名で、圧巻の舞と曲を堪能してはいかがでしょうかでしょう。

お問い合わせ

「一般社団法人 伊勢大神楽講社」
(代表・山本勘太夫社中)

TEL 0594-17312788

*伊勢大神楽の表記に関しては、伊勢太神楽、伊勢代神楽などがあり、「伊勢太神楽」として国の重要無形民俗文化財に指定されています。文中では、伊勢大神楽で統一しました。

旧正月の法要を守る人々の想いが結集

正月堂の修正会

【伊賀市島ヶ原】



凍てつく寒さが続く旧正月のころ、観
音寺では古式ゆかしい修正会 県指定
無形民俗文化財が行われます。修正会

は「元頭村」「西方」「中矢方」「蜜ノ木講」
「白黄会」「聖風講」「子供節句之頭」の7
組があります。各講の人々が手にして

2月9日、元頭村では古式に則った大餅搗ぎが行われる。※ 撮影：山菅 善文

とは、五穀豊穡
や天下泰平など
を祈願して、お
正月に行う法会
（法要）のこと。そ
のため、同寺は古
くから「正月堂」
と呼び親しまれ
ています。

現在、修正会
が行われるのは
2月11日と12日。
11日の大餅会式
では、講ごとに
行列を組んで正
月堂まで練り歩
きます。講は、修
正会を行うため
に結成された住
民組織で、現在

いるのは、鬼の頭の形をしたユニークな
飾り物や、餅をサクラの枝に付けた成花
などに加えて、直径約30センチメートル
もある円柱形の餅5つ。「エトオーツ」「エ
トオーツ」の掛け声とともに本堂に練り
込んでいく姿は勇壮そのものです。12
日には、本堂で結願法要が行われます。
正月堂の住職はじめ数人の僧侶が、体を
打ち付ける五体投地に続いて、本尊が安
置された厨子の周りを牛玉杖で力強く
打ちつけます。これは「眠り観音」と呼ば
れる本尊の木造十二面観音立像（国重要
文化財）を目覚めさせるためだといわれ
ています。そして、
法螺貝や太鼓や
鉦などを乱打す
る中、水天と火天
の舞が繰り広げ
られます。大音
響の中で行われ
る荒行は、達陀行
法といわれます。
豪快で神秘的



山菅 善文さん



池田 周硯さん

な法要が終了した13日には鏡開きが行
われ、供えた大餅を切り分けて関係者に
配ります。皆で一緒に供物やお酒など
をいただく儀式（直会）を終えると、やが
て島ヶ原に春が訪れます。

「私たちにとっては、修正会は前年の
12月から始まっています」と教えてくれ
るのは、池田周硯さんです。池田さんは、
「中矢方」で本年の頭屋（当番）を務めま
した。話を伺うと、役割分担を決める事
始めに始まり、山の神に参拝した後にサ
クラやマツなどの道具となる枝を伐り
出し、鬼頭や成花などを新たに手作りす
る傍ら、2月9日には皆で大餅搗ぎを行

うなど、想像以上に多くの儀式が続くこ
とがわかりました。そのため、かつて存
在した講のいくつかは解散し、「中矢方」
も活動を休止していた時期があったと
いいます。それでも再び活動を開始し
た池田さん。その理由を聞くと、「祖父
も父も続けてきた伝統を絶やしたらイ
カンから」と、力強い答えが返ってきま
した。池田さんの想いは、正月堂の堂番
（本堂の管理人）を務める山菅善文さん
はじめ、島ヶ原の人々にとっても共通で、
近年は女性や子どもたちも講に参加。
1250年以上もの歴史を有する修正
会を守り続けているのです。



頭屋に授けられた牛玉札

来たる
2月11日
と12日、
人々の想
いが結集
した正月
堂の修正会の迫力を、間近に感じてみて
はいかがでしょうか。

なお、本尊の開帳は33年に一度のみで
すが、来年度中に「東京国立博物館」展
示・公開される予定です。

お問い合わせ

観音寺 社務所
TEL 0595-5913080



2月11日、松明を先頭に正月堂まで練り歩く ※
撮影：松永 秀基



本堂に並べられた大餅や鬼頭など ※
撮影：山菅 善文



達陀行法 ※
撮影：山菅 善文



観音寺楼門（国重要文化財）



観音寺本堂（国重要文化財）

七日間続く真宗最大の祭り

真宗高田派本山 専修寺 報恩講(お七夜)

〔津市二身田〕



国宝の御影堂に幕が張り巡らされ、華やぐ境内※

高田本山と親しまれる専修寺は、親鸞聖人の教えを受け継ぐ真宗高田派の本山寺院。大きな伽藍が立ち並ぶ境内の御廟には親鸞聖人のご遺骨があり、如来堂・御影堂などの国宝建造物をはじめ、たくさんさんの宝物や文化財を持つ名刹です。また、夏には境内に蓮が美しく咲き乱れる花の名所でもあります。毎年1月9日から16日まで、この専修寺で行われるのが真宗最大の法会「報恩講」。一般には「お七夜」として

て、一身田の新年の風物詩となっています。

お話を伺ったのは、参拝課主任で宝物館事務長の眞弓 俊光さんと参拝課で広報担当の千賀 光真さんのお二人。「報恩講は、親鸞聖人を偲ぶ法会です。聖人が亡くなられた1月16日(旧暦11月28日)に向けて、七昼夜にわたってお勤めが行われる、1年の諸法会の中で最も大切な法会で、日本中の各地から、たくさんの方が来てくださいます」と眞弓さん。千賀さんも「勤行のほかにも、講演やお説教、親鸞聖人の生涯の物語を描いた『御絵伝』が掲げられるなど、真宗に親しんでいただけるような催しがたくさんあります。広く衆生を救うのが真宗の教えですので、宗派や信教にかかわらず、皆さまに楽しんでいただきたいと思います」



千賀 光真さん



眞弓 俊光さん



幻想的な竹あかりの光※

ています」と、門は広く開かれていて話されます。

お七夜の期間だけは、境内に提灯がともされ特別な夜の風景が楽しめますが、

が境内に開かれます。「お浄土がこの地に出現したかのような、安らぎのある美しい光景です」と千賀さん。竹あかりと同時に演奏会が開かれる日もあります。ほかにも、新宝物館「燈炬殿」の宝物展示や普段は非公開のお庭「雲幽園」、茶室「安楽庵」の見学ができるなど、お七夜中は特別な催しがたくさん予定されています。



三重県史跡名勝「雲幽園」※



16日だけに行われる御参廟(大行列)※



きらびやかな御影堂の中での法会※



宝物館の「燈炬殿」※



御影堂(手前)と如来堂(奥)は
いずれも国宝



山門は専修寺伽藍の総門

お問い合わせ

真宗高田派本山 専修寺 総合案内所
TEL 059-1232-7234

ます。

またこの期間は、専修寺内だけではなく、近隣のまちにとっても年に一度の大きなお祭り。寺内町一帯が露店やイベントなどで大いににぎわいます。

一週間にわたるお七夜。お念仏や法話に親鸞聖人を感じたり、美しい光景に精神を開放したり、露店を巡ったり、イベントに参加したり、国宝や文化財に接したり、人それぞれの楽しみ方があります。

冬の夜、火の粉とともに舞う勇壮な神事

東大淀の御頭神事

【伊勢市東大淀町】



火の粉が巻き上がる中で、御頭が火の中に飛び込み悪魔払いをする※

伊勢市の宮川下流沿岸部を中心とした地域では、1月から2月にかけて飢饉や悪疫を祓うための「御頭神事」が各地

で行われます。なかでも東大淀地区の御頭神事は、400年以上前から続く佐登奈加神社の神事で、住民の災厄を一身に背負った御頭が炎の中でそれらを焼き尽くす奇祭として、県の無形民俗文化財にも指定されています。来年の開催は2月7日。以前は旧暦1日1日に実施されていましたが、近年はその直前の土曜日に実施しています。かつては正月の行事として農漁業の事始めを兼ねていたそうです。子どもの頃は夏の祇園祭礼と冬の神事祭礼（御頭神事）は毎年ワクワクする行事でした」と語るのは神楽師の濱

口典彦さん。神楽師とは舞や演奏、悪魔祓いなど御頭に関係する儀式全般を担うメンバーのこと。昔は世襲制で、地区の長男しか入れないなどの制約がありました。が、時勢に合わせて変化し、現在の構成員は御頭を担ぐ舞子と演奏する笛方を合わせて13人となりました。御頭は神様であり、御頭に触れる神楽師は昔から厳しい浄めの儀式に挑んできました。神事の約1カ月前から家族らと寝食を別にし、祭の前に海垢離・水垢離・湯垢離などで心身のケガレを浄めることもあり、そんな中、後継者不足により一時は神楽師が減り、平成19（2007）年



中西 敏彦町会副会長



森 治行町会長



濱口 典彦さん

に一時休止することに。しかし町民の「伝統をつなげたい」という想いから子供頭（小さい御頭）を新たに製作し、小学生から高校生までの希望者が誰でも参加できるようにすることで平成22（2010）年から再度復活しました。

祭の当日は、朝9時頃にお宿（参集殿）にて舞を行った後、神楽師らが御頭を担ぎ、町の西側の辻を回り悪魔祓いをします。悪魔祓いとは御頭が剣を持ち、地区の人々の前で剣を何度も振り、厄を祓うというもの。厄払いを受ける人々は皆、腰をかめ頭を低く下げて祈ります。道中は所々で「五起こしの舞」や、地区の

四方に当たる場所では須佐之男命が八岐大蛇を退治するようすを表す「七起こしの舞」を披露。午後1時からは佐登奈加神社で御頭の舞いを奉納し、2時から地区の東側の辻々を回ります。そして夕刻、日が沈むと祭りの舞台は千引神社に移ります。神社の前の広場に積まれた高さ3メートルほどの青松葉の束が神楽師により点火され、大篝火の傍らで火祭りの神事が行われます。悪魔祓いで全ての災厄を引き受けた御頭が篝火の中に入ろうとするのを住民が引き留めるといったやりとりを数回繰り返し、最後はついに御頭を担いだ神楽師が炎の

中に飛び込みます。神楽師が火の粉を蹴り上げ、住民も竹棒でおき火をふりかけ、冬の夜空に火の粉が乱舞する。これがこの神事のクライマックスです。そして御頭は火の粉を浴びて悪魔を焼き払い、村人を守ります。現在は少子化により人員の確保が難しくなっていますが、かつての子供頭のメンバーが神楽師に入るなどよい循環も生まれている東大淀地区。伝統を守り続けています。

お問い合わせ

東大淀町民会館
TEL 0596-3713948



紙垂（しで）で覆われた御頭※



御頭の重さは約27キログラム※



佐登奈加神社



ふだんは静かな境内

古和浦山神祭

（南伊勢町古和浦）

お手製の宝物や祭文の掛け合いで祈りを捧げる



鳥居前の広場に祭場を設ける山神祭※ 提供：南伊勢町教育委員会

熊野灘のリアス海岸が続く湾状の奥に位置する南伊勢町古和浦は、漁業の町として発展してきました。かつては山から伐り出した雑木などを各地へ搬出し、漁業とともに重要な産業でした。古和浦の正月は7日の山神祭、10日の八幡祭、13日に日待ち・大漁祈願祭と行事が続きます。

山神祭は、船が停泊する港と街並みを望む山の中腹で行われます。八幡山または大木山と呼ばれる山の狭い坂道を5分ほど上がると、右手に鳥居の立つ平坦な広場があり、階段先の八幡神社に山の神が合祀されています。

「堰堤（えんてい）ができる以前は、もっと上の浅間（せんげん）さん近く

に祀られていました。祭りで準備する物はウツギの棚とお供物。魚はソマ（ソウダガツオ）とオコゼが必要です。注連（しめ縄）に飾る宝物は手先が器用な漁師のお手製です」と古和浦地区の氏子総代長・上村光さん。棚はウツギの枝で高さ80センチメートル、幅30センチメートルに仕上げ、お供物にはトコロ（山芋）や伊勢エビ、懸（かけ）の魚としてのソマと、秘密の魚としてオコゼを半紙に包みます。

注連縄へ飾る宝物は、漁業や農業、山仕事に関わる模型で全部で16種類。カツオやサバ、イワシ、タイ、サゴシ、碇（いかり）に鋸（のこぎり）や鉋（かんな）平鋸（ひらのこぎり）に鎌などを二対ずつ用意して吊るします。

古和浦は22の町組から構成され、山神祭は輪番制の当番町が主体となつて、氏子総代が補佐をします。当番町から一之当と二之当、そしてカラス役を選び、この三人が行事の中心的役割を担います。



上村 光さん

「現在は1月7日の午前に行われていますが、かつてはその前日の6日午後7時より12時まで、皆が集まって酒盛りが行なわれ、7日に日が替わった午前0時に神事が始まっていました」と上村さんが教えてくれます。10年ほど前に開始時間を変更しましたが、行事の内容はそのまま受け継がれています。

参列者の中から「もうそろそろカラスが鳴く頃だな」「鳴かんと夜が明けるぞ」などと声が出ると、「カー、カー」と山の中からカラス役の鳴き声が聞こえてきます。そこで太鼓が叩かれて、鳥居前広場を祭場に神事が始まります。お



祠の前で掛け合いを行う



八幡神社に同座されている



山神祭は町指定の文化財



道具や魚の模型が宝物



山の中腹から集落を望む

祓いを受け、官司による祝詞奏上、参列者が玉串を供えた後に、一之当と二之当、氏子総代が提灯を手に、当番町からも数人が付き添い、祠前で掛け合いが始まります。

懐にオコゼをしのばせた一之当と二之当が村内泰平、五穀豊穰、大漁満足を祈願し、その後、一之当が「秘密のウオをみせましょうか」といって懐のオコゼを少しのぞかせ、二之当が「もそつ」とねだり、一之当の「ならぬ」といった問答でオコゼを供えます。続いて、古辞といわれる祭文が述べられ、その祭文には、農作物を痛める猪や猿など地域へ入って

来ると害になって困るものが並び、また追い払うための呪文といわれる「スントーロク」という言葉で撃退します。掛け合いが終わると、参列者全員で初笑い。和やかな雰囲気です。

カラス役がいたり、注連縄に吊るす宝物や、秘密の魚と称するオコゼ、そして神饌のトコロに願いの込められた祭文と、山神祭は古和浦特有の興味深い内容の連続。長い年月の間、土地に住む人々の信仰心により、絶えることなく培われています。

お問い合わせ

南伊勢町役場南島庁舎

TEL 0596-177-0001

神代から根付く祭りの形と信仰心を未来へ繋ぐ

花の窟神社のお綱かけ神事

【熊野市有馬町】



2月2日と10月2日に行われるお綱かけ神事(県指定無形民俗文化財)は、花の窟神社の春と秋の例大祭。『日本書紀』

の記述にある「花を以て祭る」を今に受け継ぎ、五穀豊穣を祈願します。花の窟はイザナミノミコトの墓所と伝わり、社殿はなく、45メートルの大岩がご神体。神の依代を岩に求める磐座信仰の代表格で「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産に登録されています。

大綱を祭りの参加者で七里御浜へと引っ張る ※ 撮影：高見 守

奉納されます。「ご神体から大綱を渡して大勢で浜へと引っ張ります。参拝者であれば祭りにどなたでもご参加いただけます。大綱に触れればご神徳が得られると、毎年たくさんの方が訪れてくれます」と花の窟で宮司を務める山川均さん。この百十尋(170メートル)の大綱から垂れる三つの幡には、季節の花々と扇が結びつけられています。「祭りに欠かせないのが深紅の花。火の神カグツチを表しているともいわれ、秋にはケイトウ、春にはツバキを用意します。昔は鶏の頭のように大きなケイトウを揃えたとされていて、今でも花びらの立派なものを探しています。これまでのやり方を変えないでやっていくことが大事でしょうから」と山川宮司の言葉通り、昔から花をお供えに祭りが続けられ、古い和歌や文書にもその様子が見て取れます。



山川 均宮司

花と同様に大切なのが、7本の綱。稲藁で作られた綱は、ご祭神であるイザナミノミコトが産んだ、風・海・木・草・火・土・水と、それぞれ自然神七柱を表しています。

大綱作りには近在の熊野市有馬の氏子を中心となつて、地区ごとに6班に分かれ輪番制で準備が行われています。藁から整える作業で大人数が必要となり、藁の外皮を取り除いてきれいにする「藁選り」、機械で打って柔らかくする「藁打ち」、手作業で縄を編む「縄編み」のグループに分かれて作業を進めて準備します。藁に水を打って叩いて縄えや

すいようにしますが、一束叩くだけで手はしびれるほど。力仕事かつ細かな手作業も求められるため、人手不足になりがちです。「昔は農家で藁草履や注連縄なんかも作っていましたが、最近ではそういうこともなくなり、縄編みをできる人が少なく、藁自体触ったことがないという人もいて、年々危ぶまれているところもあります。それでも毎年、氏子さんや有馬地区以外の方も来てくれて、祭りを支えてくれています」と感謝を口にしている山川宮司。数年前から地元の若い参加者もいたり、遠方からは泊まりがけで手伝いに来てくれる人もいます。

「昔から続くことを忠実に伝えていきたい」と、神事が無事に済むたびにホッと胸を撫で下ろす山川宮司。歴史は古いのですが社殿のない神社ゆえ、代々残されているものがほとんどなく、今伝わる内容をしっかりと執り行うことが使命だと感じています。



社務所内に設けた祭場



参道を進む祭り奉仕者 ※



大岩の上で綱をしぼる ※



地元小学生による巫女舞 ※



大岩がご神体の花の窟

お問い合わせ

花の窟神社

TEL 0597-89-2881

ふれあい長寿津

平成3（1991）年、超高齢社会を見据えて、県主催の「みえ長寿社会大学」が開講しました。5年後には、卒業生が中心となつて三重県長寿社会推進協力員連絡協議会」を設立。その後、同大学の閉講にともない、同協議会も解散しましたが、津支部の有志が任意団体「みえ長寿推進協力員津連絡会」を発足。現在は「ふれあい長寿津」と名称を変え、地域貢献活動などを実施しています。



龍 薫さん

お問い合わせ

「ふれあい長寿津」事務局
TEL 080-2638-4634
(山本 悦男さん)

残暑続くころ、集まってくれたのは、代表の龍薫さん、副代表で事務局長の山本悦男さん、健康づくり担当の平田あい子さん、会計担当の千代世正人さんの4人。終始、和やかな雰囲気の中、主にお話を伺ったのは、龍さんと山本さんです。

——まずは「ふれあい長寿津」設立までの経緯について教えてください。

龍：私は三重県が主催した「みえ長寿社会大学」の卒業生です。リタイア後に「わしも族」（定年後のシニア男性に多く見られる行動タイプ）になりかけていたのですが、受講したおかげで多くの仲間ができました。仲間たちと「三重県長寿社会推進協力員連絡協議会」を設立しましたが、大

学が閉講すると、協議会も解散してしまいました。そこで、「みえ長寿推進協力員津連絡会」を発足し、任意団体として活動を始めたのです。

山本：この連絡会が、平成29（2017）年に「ふれあい長寿津」に名称変更して現在に至りますが、その間に独自で「ふれあいカレッジ」を開講し、今期で第15期となります。修了生の多くは仲間として活動に関わってくれて、現在の会員数は204名です。

——「ふれあいカレッジ」の内容は充実しているようにですね。

山本：今年の場合、5月から10月までの16日間で、20科目以上のカリキュラムを用意しました。例えば座学では、津市長の「特別講話」に始まり、「異常気象が起こ

る理由が分かると人生絶対得します」「特殊詐欺など消費者トラブル対処法」など、それぞれの分野の専門家を講師に招いて、実践的に学べるように工夫しています。実習や体験も揃えていて、「救命講習（心肺蘇生とAED実習）」などがあります。



千代世 正人さん 平田 あい子さん 山本 悦男さん

——ほかに「グラウンドゴルフ体験」やハイキングなども行っていて、会員同士の交流が盛んですね。

平田：私は「ふれあいカレッジ」第9期の修了生で、現在は健康づくり担当として、グ

——皆さんが、社会福祉事業優良団体として、毎年のように表彰されている理由がわかりました。

龍：私たち高齢者は、社会的弱者とかわれがちですが、多くの人は健康でいきいきと充実した生活を送りたいと思っています。「ふれあい長寿津」が取り組んでいるのは、健康長寿社会と明るいまちづくりです。

山本：第16期の「ふれあいカレッジ」の募集期間は、来年2月1日（日）から4月15日（水）の予定です。津市在住のおおむね55歳から75歳までの方が対象で、受講料は5000円です。ご応募お待ちしております。

龍：最後に、「ふれあい長寿津」のシンボルフレーズをご紹介します。

心はひとつ（生涯いきいき仲間とともに）
会はひとつ（全員野球活動でふれあいと地域貢献を）
目標はひとつ（人生100年時代、健康でいきいきライフを）

を共有し、一つの環になりましょつ。

——ありがとうございます。

インタビュアー……中村 真由美



「ふれあいカレッジ」座学風景 ※



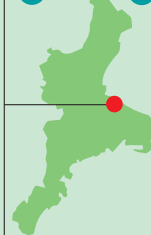
ハイキングの様子 ※



津市教育委員会によるお手玉授与式 ※



「グラウンドゴルフ教室と大会」※



田園風景の中、神々ゆかりの地に行く

明和町・松阪市

両機殿神社付近

明和町と松阪市の境界近くにある神服織機殿神社（下機殿）と神麻続機殿神社（上機殿）の付近は、広々と続く田園風景の中に、神社や集落が点在します。今回は、本居宣長記念館名誉館長の吉田悦之さんのご案内で、明和町にある明和町コミュニティバス「イオンモール明和」バス停をスタートし、両機殿付近をぐるりと回って、バス停に戻るコースをめぐるります。「この辺りは、櫛田川と祓川の三角州に当たる地形で、治水の苦難の歴史があります。また古代には、延喜式に載るいわゆる式内社が多数存在しました。そんな神さびた面影を追って歩いていただけると良いと思います」と吉田さん。のどかな田畑の間を、お宮から次のお宮へ、ゆったりと歩きます。

取材・文：堀口裕世

明和町と松阪市の境界近く

明和町の西端にある明和町コミュニティバス「イオンモール明和」バス停からスタート。敷地の南側にある歩行者用の小さな出入口から裏の道に出て、松阪市に入っていきます。今回歩く道の多くは農道で、通行量は多くありませんが、歩道はなく自動車も通りますので注意して歩いてください。

田園風景の中にこんもりと丸く茂る大きな杜があるのは、伊勢神宮の所管社・神服織機殿神社（下機殿）。まずはこの杜に向かって歩き始めます。この杜



「イオンモール明和」内のバス乗り場



歩行者用の出入り口から外へ



福井文右衛門の石碑



神服織機殿神社の鳥居



鳥居前から南へ、道はまっすぐに続く

の外側、北東の角にあるのが福井文右衛門石碑です。「文右衛門は江戸初期に名張藤堂家から遣わされたこの辺りの代官です。神域を侵さないように迂回して水路がつくられていたため、この付近では稲作が難しかったのを見かね、一夜で神域を通る水路を建設し、その後切腹して責任を取ったといわれています。地元の恩人ですが、墓所は名張市にあるようです」と吉田さん。豊かに広がる田園風景はこの人のおかげなのだ感謝を胸に、杜に沿って続く小道をたどり、下機殿の鳥居前へ。「ここは、神宮の125社の一つで、神御衣祭にお供えす

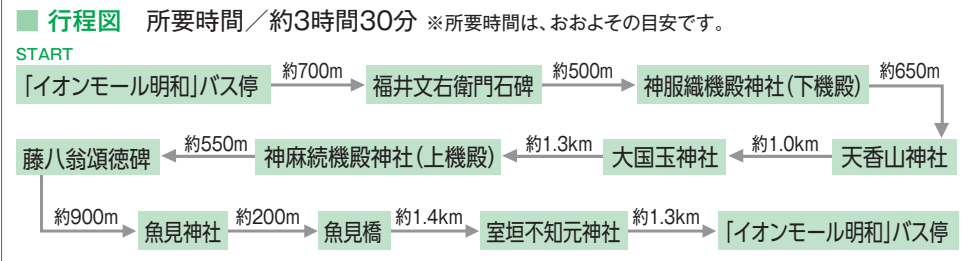
る絹の御料を織る神社です。毎年5月と10月のお祭りの前には、今も神様にお供えする和妙（絹布）が地元の人々によって織られています」。

下機殿から天香山神社へ

下機殿の鳥居の前から、水田の中をまっすぐに続く道を、前方に見える保津町の集落に向かって歩きます。家並みの中心付近を通る道を進んで行くと天香山神社の前に出ます。「ここも式内社と祓川の間に15くらいの神社が載せられています。稀に見るたくさんの神々



本居宣長記念館名誉館長の吉田悦之（よしゆき）さん。「歴史には謎が多いのですが、その地を歩くと感じるものや発見があります。楽しんで歩いてください」。





天香山神社



光安寺。左の小さな建物が薬師堂



大国玉神社



大福寺山門



神麻績機殿神社

が鎮座する場所だったようです。多くの神社が洪水や合祀ごうしなどによって変化していますが、この辺りの神社の多くが古い由緒を持つ式内社なのです。この隣にあるお寺は光安寺。ここの薬師堂には、かつて福井文右衛門自刃の刀が収められていたということです。すぐ近くに名張藤堂家の代官所の跡地もあります。

おおくにたま 大国玉神社から上機殿へ

続いて、また田園の中を右手前方の六根町ごんちやうに向かいます。この集落の西側にあるのは大国玉神社です。「ここの式内

社です。この付近の氏神で、明治時代はいくつかのお社がここに合祀されました。隣にあるのは大福寺。町の中央を東西に走る道を右に折れて、神麻績機殿神社(上機殿)に向かいましょう」。

また広い田園風景の中を、上機殿の杜をめざして歩きます。「上機殿神社は、荒妙あらなえ(麻布)を織る神社です。下機殿と同じく、神宮の神御衣祭の前には地元の方たちが誇りをもって布を奉織されています。江戸時代この付近は木綿の産地であり、古くから織物が盛んだったということです。二つの機殿神社は、戦国時代に神宮の奉織が途絶えたことなど

がありました。が、藤堂藩によって再興され、江戸時代には織物の神様として遠方からも参詣者を集めたようです。静かな機殿神社にも、長い歴史の中では揺れ動く時代の波があったと、時の流れの重みを感じながら、上機殿神社の前から西方向に向かい、県道706号に出て、北方向に進みます。

人柱の悲しい伝説

少し進むと、右に分かれていく道があり、その分岐点近くに藤八翁とうやう頌徳碑があります。「櫛田川は昔は暴れ川だったのです。文政5(1822)年、堤防工事

のために人柱となった藤八の事を伝えています。昭和になって、堤防改修の際に藤八の遺骨や遺品の鉦などが発見されたそうです」。

この道を少し進んだ左側には、その場所を示す木の柱が建てられています。昔はこの付近に堤防があったのでしょう。治水のために命を落とした悲しい物語に思いを馳せ、さらに進み、魚見町に入ったところで左へ行きます。



藤八の遺品等が見つかった場所

やまひめのこと 倭姫命が名付けた社

魚見町の一角に杜の茂る魚見神社うおみがあります。「昔、倭姫命が船で櫛田川を下つてこられたとき、魚が自然に集まって船に飛び乗ったので、姫が喜ばれ魚見社をお定めになったと『倭姫命世記』にあります。魚見神社ももちろん式内社です。ここから、スタート地点に戻る道のりになりますが、長く歩きましたので、休憩を兼ねて、魚見橋の中央辺りまで出て魚影を探してみるのも良いかもしれませんね」。魚見橋は長い橋で、脇に歩行者用の細い橋があります。中央に向かって

少し歩くと視界が開け、川の風景が楽しめます。倭姫命の気分で川景色を楽しんだら、魚見町を離れ、県道706号を新開町の方向に進みましょう。新開町の家並みの中を右へ折れ、最後の立ち寄り先、室垣不知元神社むろがきふちもとへ。一度大国玉神社に合祀され、また戻ったというので、やはり古い由緒を持つ神社です。ここを出れば、もうゴールが見えています。神々のやどる古い時代のおもかげと、水と闘った人々の物語が交差する風景の中を出発点に戻りましょう。

問 松阪市観光協会
TEL 0598-23-7771



藤八翁頌徳碑



魚見神社



魚見橋



櫛田川の風景



室垣不知元神社

守りたい、いのち
三重県指定希少野生動植物種

絶滅のおそれのある動植物種のうち、特に保護する必要がある種で、
三重県指定希少野生動植物種として指定している野生動植物を紹介します。



マイヅルテンナンショウ

被子植物単子葉類サトイモ科

◆ 分布 ◆
中勢

草原や河畔林などに生育する多年草。高さ60～120cmで球茎に子
球を形成する。葉は1個で、鳥足状に17～21枚の小葉をつける。

資料・写真提供：三重県 農林水産部 みどり共生推進課 野生生物班

■ お問い合わせ

三重県 農林水産部 みどり共生推進課 野生生物班

TEL:059-224-2578 メールアドレス:midori@pref.mie.lg.jp

*三重県指定希少野生動植物種を県ホームページに準じて紹介しています。

*県ホームページで他の野生動植物種をご覧になれます。

表紙写真 「真宗高田派本山 専修寺 報恩講(お七夜)」(津市一身田) 提供：真宗高田派本山 専修寺

百五銀行のホームページで、「すばらしき"みえ"」のバックナンバーをご覧いただけます。
<https://www.hyakugo.co.jp/mie/>